

# 研究大学強化促進事業に関する意見書の取りまとめ

A:優れている

B:良好である

C:不十分である

## 1. RU事業(2019年度)の活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1) 計画に沿った活動状況であるかについて	A	評価者：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・QS分野別（医学）、THE分野別（臨床）のランキング目標は達成しており評価できる。</li> <li>・ただしTHE総合ランキング（日本版）23位はむしろ教育力中心の評価指標だと思う。</li> <li>・ランキングについて次の目標を設定しないとダレるのではないか。（海外含め有力校をベンチマークおして選ぶなどしてはどうか）</li> </ul>
	A	評価者：B	全体的に非常に活発に活動していると思います。
	A	評価者：C	今回、対面での説明を聞けなかったため、残念ながら不明な点が多かった。とくに、私は将来構想があり、それを具体化達成目標があり、それを実現するための事業計画があると考えていたのだが、「研究大学強化促進事業の進捗状況 2019年度」（以下、「進捗状況」）では、将来構想の5つの柱を中心に説明されていたため、それ自身が事業計画のように見えてしまった。ここでは将来構想の5つの柱を目指すこと自身が本RU事業の事業計画と考え評価させて頂く。その観点からすると、様々な取り組みが着実に進められており、計画通りに順調に進んでいると評価できる。
	A	評価者：D	事業計画に則り、順調に活動しているものと評価できる。
	A	評価者：E	単年度における数値的目標設定は少ないが、過去の実績との比較においても、事業面、組織面においても、RU事業の着実な前進が伺える。
	A	評価者：F	1. 研究体制・環境の整備、2. 重点研究領域研究の推進、3. 臨床研究の推進、4. 若手研究者の育成、5. ライフイノベーションの創設の将来構想の実現を目指して、計画に沿って着実に各施策が実施されている。
(2) 事業活動の進捗状況について（全般的評価）	B	評価者：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフイノベーション実績、科研費等の添削実績はよい結果。</li> <li>・歯学ランキングが相対的に落ちているようにみえる。対策の成果がどう出てくるか注視したい。</li> <li>・特定臨床研究は2018年度に比べ、2019年度は出足が遅いようだが年度末までやれば十分増えるのか？よくわからなかった。</li> </ul>
	A	評価者：B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究推進のための講座（観察研究と介入研究）開設」「オープンイノベーション機構の設置」「医歯エグアイア・ラボによる若手研究者育成システムと高等</li> </ul>

			<p>研究院のサポート」に期待します。</p> <p>・「若手研究者育成」の（中間を含めた）評価システムはどうなっているのでしょうか？</p>
	A	評価者：C	<p>上記（1）のコメントの観点で述べれば、各事業活動は十分に進んでいると思われる。実際、「進捗状況」で掲げられている12個の達成目標の中の多くが、かなり達成できていると言える状況のように思える。一方で、ロードマップや数値目標などの指標を頂いていないので、具体的にどの程度の進捗状況であるかを評価することができなかった。</p>
	A	評価者：D	<p>医科歯科大学は、本事業を通して2013年度より10カ年計画で世界ランキング100以内を目標としていたが、2018年度には、それを前倒しで達成とのことであり、優れた進捗状況であると評価できる。ただし、2019年及び2020年のQS大学分野別ランキングでは、医科歯科大学は、184位、204位である事が指摘できる。これだけを指標とするなら、未だ目標を達成できたとは言い難いと考える。</p> <p><a href="https://www.topuniversities.com/university-rankings/university-subject-rankings/2019/life-sciences-medicine">https://www.topuniversities.com/university-rankings/university-subject-rankings/2019/life-sciences-medicine</a></p> <p><a href="https://www.topuniversities.com/university-rankings/university-subject-rankings/2020/life-sciences-medicine">https://www.topuniversities.com/university-rankings/university-subject-rankings/2020/life-sciences-medicine</a></p> <p>この様なnegativeな側面の記載がないのは如何かと思うが、その一方、いわゆる世界ランキングは、評価対象や指標によって大きく変わるため、順位で一喜一憂する事なく、絶対的な質の向上を目指されたい。</p>
	A	評価者：E	<p>各部内において組織の変革が多く見られるが、短期間で改革の趣旨に添った活動を推進し、実績を上げている。</p>
	A	評価者：F	<p>医学分野の世界大学ランキングの目標である100位以内を前倒しで実現するなど、事業活動は計画以上に進捗している。</p>
(3) 評価(外部評価・自己評価)に基づいた改善がなされているかについて	B	評価者：A	<p>・絶対値の向上だけではなく、ベンチマーク相手の大学を決めて、そこの伸びと比較しての評価をする段階に進んでほしい。(共著論文数等)</p> <p>・IRと歯学について昨年度コメントしたが、まだ対策の取組段階と認識の結果を待つ。</p>
	A	評価者：B	<p>・原著論文総数、国際共著論文数などの斬増に現れている。</p> <p>・中区分「57：口腔科学およびその関連分野」における新規採択率が平成30年度には20.8%でしたが、平成31/令和元年度には27%に上がっている点に改善点が現れているのかもしれない。</p>
	A	評価者：C	<p>「進捗状況」p.25の説明を拝見する限り、指摘事項に対してと十分取り組まれていると思われる。あえて難を言えば、女性研究者の育成についての取組みが見えなかった。(もちろん、理工系大学に比して女子研究者比率は大変高い。この点は素晴らしいのだが、女子学生比率はさらに高いので、まだ伸びしろは</p>

			あるように思われる。)
	A	評価者：D	本事業の外部評価委員会資料 Page25 を見ると、少なくとも外部評価に基づく改善の努力がかなり見られる。
	A	評価者：E	RU 事業の改善により、応募者の意欲の向上が伺えるが、意欲の増加に応じたさらなるパイ（機会・予算）の確保・拡大が望まれる。
	A	評価者：F	外部評価における指摘事項一つ一つに対応した取り組みが行われている。

## 2. URAについて

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昇進実績を見ると、URA 人事評価モデルはうまくいっているように見える。</li> <li>・財務的にどこまで（どの程度）自立して編成できるのかについても分析整理されるとよいのでは。</li> </ul>
A	評価者：B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つのブランチの設定、人員の設置など非常に合理的。</li> <li>・事業活動の進捗状況や新規プログラムの設定などに室長、シニア URA、ブランチ長のリーダーシップと室員、トレーニーの仕事ぶりが窺えます。</li> </ul>
B	評価者：C	<p>問題点（疑問点）：貴学におけるオープンイノベーション機構の位置付けがよくわからなかった。とくに統合イノベーション推進機構との関連がわかりにくい。両機構には、URA（もしくはそれに類するクリエイティブマネージャー）が配置されているはずだが、それらの役割分担がよくわからなかった。</p> <p>評価できる点：人事評価制度が着実に実施され、昇進へ反映されている点は素晴らしい。「進捗状況補足資料」に「テニユア教員ポストの付与」との記載があったが、職階と関連して教員への転換がなされているのかお聞きしたかった。</p>
A	評価者：D	URA 室と広報部が連携し、医科歯科大学の最重点研究を広報戦略的に情報発信するなど、効率的な素晴らしい働きをしているものと思われる。
A	評価者：E	「医療系 URA」のモデルとして着実に改革が進んでいるが、「統合イノベーション推進機構」の設置と相まって、年度毎に人的財政的裏付け（予算）を置くなど、拡充に向けた努力を期待したい。
B	評価者：F	学内の他の部署と協力して1. 研究体制。環境の整備、2. 重点的領域研究の推進、3. 臨床研究の推進、4. 若手研究者の育成、5. ライフイノベーション創設などに取り組んでいるが、URA の役割、貢献度が読み取れない。

## 3. URAの活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1)大型研究展開 ブランチ(研究費 獲得ブランチ)の 活動・実績につ いて	A	評価者：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフイノベーションの実績として国内医療系大学1位はよい結果。</li> <li>・次は国内国外含め他のベンチマーク大学を見つけてそこと比較するとよい。</li> <li>・OI 機構との間で具体的にどういう連携・調整体制になっているか、具体的にはよくわからなかった。</li> </ul>
	A	評価者：B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動実績が文科省 OI 機構の整備事業の採択に現れていると思います。</li> <li>・(学振資料より) 科研費の総額(間接経費含む)が19.1億(平成25)→18.1億(平成28)→16.9億(令和元)と下がっているように見受けるのですが、これは何かの誤解でしょうか？</li> </ul>
	B	評価者：C	<p>評価できる点:大型の共同研究(スマート歯科プロジェクト、構造創薬プロジェクト)の開始(ただ、規模、参画研究者の陣容はわかりませんでした。)とくに、クライオ電顕をオンラインで使用する試みの展開に期待したい。</p> <p>問題点(疑問点):RU 機構(大型研究展開ブランチ)、統合イノベーション機構の間の役割分担や連携がよくわからなかった。領域型・組織型そして提案型・パートナー型の産学連携を目指していることは素晴らしいが、それを具体的にどのように進めているのかわからなかった。</p>
	A	評価者：D	いただいた資料だけでは、なかなか評価が難しいが、文部科学省オープンイノベーション機構の整備事業採択などの実績があることは注目に値する。
	A	評価者：E	大型共同研究費の受入や民間との連携も進み、順調な事業拡大が見られる。今後も大型研究展開ブランチの要員拡充と IR 部門との連携による情報発信及び収集力の強化を図りたい。
	B	評価者：F	調書の添削による科研費、AMED 申請の採択率の増加など成果が出ている。大型研究費の獲得への貢献を期待したい。
(2)研究強化ブ ランチの活動・実績 について	A	評価者：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費やAMED 研究費申請支援の添削実績の伸びは成果。</li> <li>・高等研究院との連携関係が具体的にどういうことなのか、よくわからなかった。</li> </ul> <p>(URA 大学研究展開ブランチが誘致した共同研究講座を高等研究院に建てるということか?)</p>
	A	評価者：B	ライフコンソーシアムの成果に期待しますが、目に見える成果は何かあるのでしょうか？
	A	評価者：C	研究助成・研究環境支援や科研費やAMED 研究費の応募支援など、若手研究者の育成に力を入れている点評価できる。今後、「医歯工ガイア・ラボ」の成果を期待したい。
	A	評価者：D	若手研究者の育成をしっかりとやっている点、次世代研究者の外部資金(科研費)獲得率の上昇など評価できる点が多い。

	A	評価者：E	各種の制度改革や予算的支援が結実し、着実に充実が図られている。若手研究者、女性研究者など人的拡充については、毎年毎の人数予算を設定し、検証していく事が望まれる。
	A	評価者：F	重点研究領域のコンソーシアム体制での推進、M&Dデータ科学センターの設置など重要施策を提案し、推進している。
(3)先進医療展開 ブランチの活動・ 実績について	A	評価者：A	・全臨床研究の一括把握・管理、学問重要臨床研究の一気通貫的支援、臨床研究人材育成への支援など様々な活動をリードしているように感じる。 ・一方特定臨床研究数は2018年度に比して2019年度(9月まで)はやや出足が遅いようだが、年度末までやれば十分増えるのか？今一つわからなかった。
	A	評価者：B	新規に開始される医師主導型治験に現れていると思います。
	A	評価者：C	臨床研究を統合的に、データマネジメントも行いつつ、教育も含めて丁寧に進められている点、高く評価したい。貴学の医療に対する真摯な姿勢を表す特徴的な活動である。
	A	評価者：D	本ブランチでは、①医科歯科大学内の全臨床研究の一括把握・管理、②電子システムを用いた研究データマネジメント、③重要臨床研究の一気通貫的支援など、非常に活発・効率的に活動しているものと考え。また、臨床研究推進のための持続的人材育成、臨床研究法準拠の臨床研究支援と品質管理などにおいても高く評価できる。
	A	評価者：E	全臨床研究の一括管理により、情報発信・収集が拡充し、新規治験の開始に至っている。「高等研究院」の拡充など次世代研究者の育成が急務。
	A	評価者：F	臨床研究支援に積極的に取り組んでおり、申請数、審査の実績を蓄積している。 また、臨床研究推進のための人材育成にも取り組んでおり、今後の成果が期待される。

#### 4. 広報活動について

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	・TMDU の重点領域研究を発信した国内外メディアの増加は良い成果。(特に国外が2018年度31件→2019年度89件と急増)
A	評価者：B	研究活動の英語版の出版・配布や積極的な研究成果のリリースが見られ、国内外への認知度が上がっていると思います。
A	評価者：C	研究広報誌を学外研究者に直接配信し、その開封数まで調査していること、SNS を利用した研究発信を行っていることなど、先進的な取り組みをされている。

A	評価者：D	上述したが、URA 室と広報部が連携し、医科歯科大学の最重点研究を広報戦略的に情報発信するなど、効率的な素晴らしい働きをしているものと思われる。
A	評価者：E	対外的に有効な広報システムが構築され、海外へのアプローチも精力的に進められている。学内においても電子的な広報だけでなく各組織毎に、計画全体の進捗状況や組織変動などの狙いを定期的に説明し、情報を得る場があってもいいのではないか。
A	評価者：F	研究広報誌の発刊、SNS を利用した研究発信などを行い、本学研究を発信したメディアの増加につながっている。

## 5. 研究者情報・IRについて

評価	評価者氏名	コメント
B	評価者：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総論文数・国際共著論文数・産学共著論文数の向上を絶対値でみてアピールするのは広報としては大事。</li> <li>・IR としてはさらに一歩進んで、他のベンチマークの大学を決めて、その強み弱みとかその伸びとかと比較して評価を行うべし。</li> </ul>
A	評価者：B	これらの情報や取り纏めをどのように各構成員にフィードバックしているのでしょうか？
B	評価者：C	頂いた事前資料を拝見すると、研究者情報や IR についての取組みは進んでいるように思われる。しかし残念ながら、研究者情報や IR についての今年度の取組みやその成果についての明確な情報が無かったように思われる。そのため、他の実績からの類推で評価させて頂いた。
B	評価者：D	本項目だけは、いただいた資料だけでは、判断が難しい。
A	評価者：E	研究広報誌や SNS の効果もあって、論文の数、国際的認知度もここ数年増加している。幹部と IR 部門との連携による優秀な研究者、指導者の獲得につなげたい。
B	評価者：F	研究者情報を活用して、優れた若手研究者の発掘、強み領域の選定などを行っていることと思われるが、資料上はあまり明示されていない。

## 6. その他、お気づきの点

評価者氏名	コメント
評価者：A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランキング目標について 当初目標を達成しているがあと数年計画期間があるので、次の目標を設けしないとダレるのではないか？</li> <li>・評価について 絶対値で過去と比較しての評価は基本だが、一部ではベンチマーク相手校との相対的な評価にも踏み込んで取りくむとよいのではないか？</li> <li>・学内組織について <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業を行う RU 推進機構と（学内）外部の高等研究院や OI 機構との関係性、あるいは RU 機構内での 3 つのブランチと他のセッションとの関係性が具体的にどうなっているか（どう貢献し、あるいは支えられているか）</li> </ul> </li> </ul>

	<p>が一見ではよくわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の場合、どんどん組織がかかわっていくので、1～2年毎に各組織のミッションや関係性、トータルとしての方向性やリーダーシップの発揮のしかたなどを見直し、再整理しておくといよいのではないか。</li> </ul>
評価者：B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費の中区分「57」における新規採択率が平成30年度には20.8%でしたが、平成31/令和元年度には27%に上がりました。しかし、それでも私立歯科大学の上クラス並みです。国立大は軒並み30後半40～50%の採択率です。医科歯科大では若手研究、基盤研究（C）クラスの採択率を上げる努力が必要なのかもしれません。</li> <li>・平成28年度の指摘に基づき、「歯学系職員の研究力調査・分析」「歯学部長や歯学部向上委員会との協議」「歯学部FR研修」「歯学部グランドデザイン」ということですが、どの様な取り組みへと向かっているのでしょうか？</li> </ul>
評価者：C	<p>医歯保険学に関するデータサイエンス教育研究拠点を目指して設置予定のM&amp;D データ科学センターの活動が楽しみである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・URAの雇用経費の財源についてよくわからなかった。事前資料を拝見すると、産学連携による共同研究経費も伸びているが、その中からどの程度をURAのような支援業務の雇用経費に利用できるかがわからなかった。</li> <li>・貴学では、寄付も多く集めることができるのでは？と推察する。頂いた資料からは、寄付の使途として、学生支援が中心のように見受けられた。研究推進や学内研究助成などにも活用してはいかがだろうか？また、そのような趣旨を掲げての寄付集めも今後重要になると思われる。</li> </ul>
評価者：D	<p>全体的に非常によく頑張っているものと思います。</p>
評価者：E	<p>一般企業の経営計画とは異質なものではあるが、全体の事業計画において、組織的な変動要素が多く、組織変動による成果を数字的に把握するためにも、ある程度数値化した目標を各年度及び中期的に設定し、検証した方が、状況把握しやすいように思う。</p>
評価者：F	<p>1. 研究体制・環境の整備、2. 重点研究領域研究の推進、3. 臨床研究の推進、4. 若手研究者の育成、5. ライフイノベーションの創設の将来構想の実現を目指して、様々な施策が着実に実行されている。まだその成果が表れていない領域もあるが、今後の展開、成果が期待される。</p>